

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	関西国際大学				
取 組 名 称	初年次サービスラーニングの取組				
取組学部等	教育学部、人間科学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21210	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専門基礎	体験活動		初年次教育	
キ ー ワ ー ド	初年次サービスラーニング, 問題解決能力, 体験と知識の総合化, Eポートフォリオ, 重層的・複合的サービスラーニング				

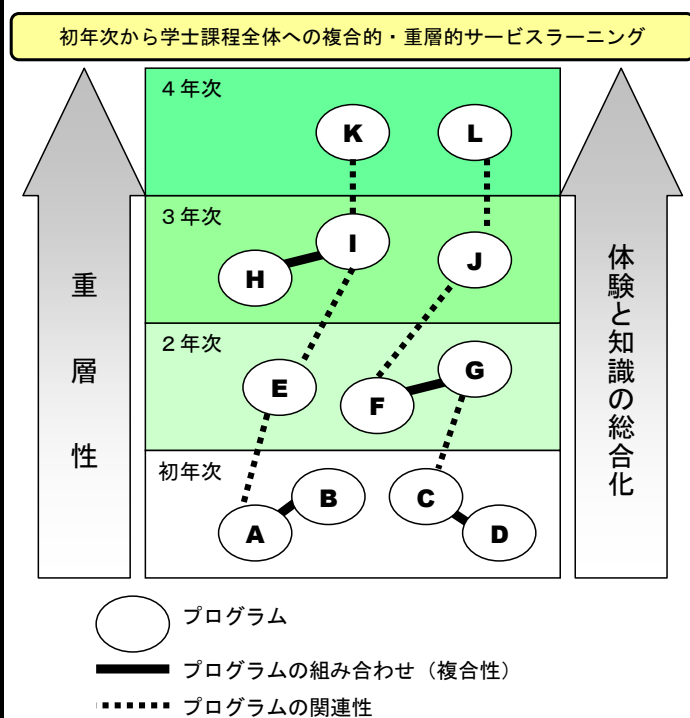
<選定理由>

本取組は、学生に問題解決能力を身につけさせるという観点から、初年次プログラムとしてのサービスラーニングに取り組んだプログラムとして高く評価できる。特に、初年次サービスラーニングをその他の関連するプログラムと組み合わせるという「複合的サービスラーニング」と2年次以降のプログラムへ積極的に参加させる「重層的サービスラーニング」として構造的に開発・展開しようとした点は、本取組の目的達成をより効果的にするものと高く評価できる。また、大学がこの取組の意義を高く位置づけ、初年次サービスラーニングのプログラムを構造的に積極的に整備しようとしており、今後の展開についても具体的な計画が立てられているなど、取組の実現性についても評価できる。

ただし、2年次以降のプログラムについては、理論的に検討されているとはいえ、必ずしも十分に検討され、準備されているとはいえない点もあるので、内実を詰めるなどの改善を図ってほしい。取組実施に当たっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、大学の1年次（初年次）にサービスラーニングを通して、問題解決能力を身につけさせるとともに、現実社会の課題と専門的知識との関連性を意識させることで、体験と知識を総合化する方法を学ばせることを目的とする、初年次サービスラーニングの取組である。サービスラーニング(service learning)とは、「市民としての責任」にもとづき、地域社会の課題を解決すべく、社会貢献活動を通して、体験と知識の総合化と「ふりかえり」(reflection)によって学びを深める教育手法である。また本取組では、初年次サービスラーニングを基盤として、2年次以降の上位プログラムへの積極的かつ継続的参加を促進することをめざす。さらに、関連するプログラムを組み合わせる「複合的サービスラーニング」と、年次進行とともに関連する上位のプログラムを体験する「重層的サービスラーニング」の仕組みを体系化するとともに、初年次サービスラーニングの教育手法を学士課程全体に展開し、学生の問題解決能力の向上と体験と知識の総合化能力を高めることをめざす。



本取組は『学士課程教育の構築に向けて』（中央教育審議会大学分科会制度・教育部会、2008年3月）に改革の方策として掲げられている、学習の動機づけと双方向型学習を展開するための体験活動の積極的導入にも資するとともに、汎用的なサービスラーニング・プログラムのモデルを提供できるという意味においても、学士課程教育の改革に資するものである。

本取組では、初年次サービスラーニングのプログラムとして「教育サービスラーニングⅠ・Ⅱ」と「人間科学サービスラーニングⅠ・Ⅱ」を開講する（Ⅰ・Ⅱとも1単位）。Ⅰは必修でⅡは選択であるが、Ⅰでの体験と学びを活かして学びを深めるため、ⅠとⅡを組み合わせる履修することを推奨する。

本取組の目的を達成するために、「準備」（体験に向けての基礎準備）、「参加と気づき」（活動への参加と気づき）、「伝え合いと分かち合い」（体験と学びの伝達と共有）、「ふりかえり」（全体のふりかえり）の4つのステージを設定した。「準備ステージ」において、各プログラムの学習目標を理解させるとともに、「ふりかえりステージ」では、学習目標に準拠したふりかえりをするように学生を意識づける。また、学生の学習意欲を向上させるため、学びに対する評価基準（ルーブリック）をあらかじめ明確に提示する。さらに各ステージでは、「What?（何を体験に、何を学んだか?）」「So What?（それにはどんな意味があるのか?）」「Now What?（学んだことをもとに、次は何をすればよいのか?）」といった、細かいPDCAサイクルを意識させることで、学習目的を明確化するとともに、体験と知識の総合化を促進する。本取組ではサービスラーニングの活動記録や学習成果をEポートフォリオに記録させる。Eポートフォリオは学生同士で相互参照されるとともに、コメントが付加され、学生に対する形成的評価を促進する。